

西宮市文化振興ビジョン[第2期] アクションプラン(後期)

令和6年度～10年度
(2024年度～2028年度)

西宮市産業文化局文化スポーツ部文化スポーツ課

アクションプランについて

- 西宮市文化振興ビジョン〔第2期〕（H31(2019)年3月）の理念や目標を具体化するためのもの
- ビジョンの期間10年を二分し、H31(2019)～R5(2023)年度を前期、R6(2024)～R10(2028)年度を後期とする
- ビジョンでは、基本理念「みんなが創る文化の力で「文教住宅都市」を未来へつなぐ」の具現化のために、2つの目標「文化芸術を広く深く浸透させる」「まちへの愛着を高める」を置いている

アクションプラン(前期)について

- ビジョンの目標を実現するための具体的方策（機会を増やす、人を増やす、つながりの場を増やす）の推進のために、アクションプラン（前期）では、3点の施策の柱を設定した

施策の柱 1：文化芸術に関する情報の集約と発信

施策の柱 2：文化芸術体験・活動の充実

施策の柱 3：文化芸術における多様なささえ方の支援

前期の振り返り〈1〉

- コロナ下の様々な制約のある中での文化芸術のあり方を模索した
- コロナ禍における国の臨時交付金を活用して、（公財）西宮市文化振興財団と共に市内の文化芸術関係者や施設へ活動継続のための支援事業を実施し、一定の評価を得ることができた
- コロナ禍により、またICTの発展と普及によってウェブを使った新たな鑑賞・提供方法、つながりが生まれた
- ライブ（生演奏等）・対面の貴重さが再確認された

前期の振り返り〈2〉

- 武庫川女子大経営学部「実践学習」、大学生受入研修（インターンシップ）など、若い世代の意見を取り入れた
- 市の文化芸術事業、貝類館、大谷記念美術館でSNSを活用した情報発信に注力した
- 文化芸術に関するアウトリーチ事業を拡充した
- 市民の文化芸術体験を広げる取組みを、商業施設や美術館など様々な場所で多様に展開した

後期に向けて〈1〉

- 前期の方針を踏襲・検証し、文化芸術によって解決したい課題を明確にした上で、重点目標を設定する
- 前期において新たに生まれたネットワークをさらに活用する
- アフターコロナにおける変化、社会情勢を踏まえて、事業を「増やす」ことではなく、より深め、充実させることを重視する
- 事業実施にあたっては、客観的な評価尺度を設定する

後期に向けて〈2〉

前期の施策の柱を下記のように継承する。

- 施策の柱1：「情報の集約と発信」
必要に応じて改善を加えながら、継続する
- 施策の柱2：「文化芸術体験・活動の充実」
文化振興の根幹であり、これによってどのような課題を解決するかを明確化する
- 施策の柱3：「ささえ方の支援」
支援に向けた有効な方策を研究する

後期に向けて〈3〉

- 文化芸術には様々な波及効果が期待できるとされるが、その中心は、人生を豊かにし、人と人とを結びつけること。
- 文化行政はその場と機会を用意し、市民がアーティストとともに文化芸術により深く関わる後押しをすることにより、人と人とのつながりが生まれることを目指す。



文化芸術**体験**・活動の充実によって、
つながりが生まれる場を作る

後期の重点目標

スキ

アートの沼にはまり、推しでつながろう

アートにふれ、感動し、好きになる

すごく好きになって、誰か・何かとつながりたくなる

つながって、豊かさとまちへの愛着が高まる

体 験

まず文化芸術にふれて、感動体験を味わい、深める

- 「みる」体験の場をつくる
文化芸術に関わりの薄かった市民が気軽にふれ、感動できる
機会・場をつくる
- 体験を深める
一回限りにとどまらず、もっとふれたい、してみたい、という
文化芸術の鑑賞・実践の深まりを支援する

つながり

人とつながり、まちへの愛着とQOLを高める

(Quality Of Life 生活の質)

- 他者とのつながり
文化芸術体験によって他者と交流し、教えあったり「推し」を共有したりする場をつくり、つながりが生まれ、深まる可能性を開く
- 時間のつながり
個人が文化芸術体験を深める場をつくり、楽しみ続け、学び続けることができ、自身の未来につなげる

実施案/例<1>

【体験】 多様な人々が気軽に鑑賞体験できる文化芸術事業

例：ワンコインランチタイムコンサート
商業施設やオープンスペース、公民館などでの
ミニコンサート
障害のある方が参加しやすいプログラム

実施案/例<2>

【つながり】 同じ文化芸術のジャンルに興味を持つ人が交流
できるワークショップ

例：みんなでつなぐアートな日

わたしとみんなのダンスワークショップ

※実施に際しては、（公財）西宮市文化振興財団を介して、市民グループや文化芸術団体、民間企業など様々な団体や個人と協力し、市としても連携を深める。

評価尺度について

- 令和6年度に市民アンケートを実施する
比較のため、文化庁「文化に関する世論調査」、兵庫県「兵庫のゆたかさ指標 県民意識調査」、過去に市で実施した調査項目等を準用する
- 各種イベントの来場者アンケートを活用する
- 個別事業の評価
例：小学校アウトリーチについて、教員へのインタビュー調査など質的評価分析が必要

その他の留意事項

- 様々な理由により文化芸術に触れにくい人
（年齢、障害の有無、経済的な状況、居住する地域等）への取組
- 世代ごとへの配慮と世代間交流の働きかけ
（子供から始まり他世代に波及させる）
- 中学校における休日の部活動地域移行に向けた取組
- 指定管理者との連携
- 西宮ゆかりのアーティストや関係団体との連携